

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 繊維マテリアル活用事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 地場産業振興係

電話番号：058-272-1111 (内3785)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,700 千円 (前年度予算額： 2,700 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,700	0	0	0	0	0	0	0	2,700
要求額	2,700	0	0	0	0	0	0	0	2,700
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・本県の重要な地場産業の1つであるアパレル・繊維産業振興のため、岐阜県毛織工業協同組合が行う繊維マテリアル(繊維素材等の見本)の整理、管理及び活用に係る経費を助成する。

【経緯】

・平成15年度、岐阜県毛織工業協同組合から、ファッション産業・デザイン産業振興に役立てて欲しいとの趣旨で、県へ繊維マテリアル(約39,500点)の寄付があった。(以後毎年寄付を受け、現在121,709点(令和6年度末))

・以来、アパレル・繊維産業の振興を図るため、テキスタイルの産地である羽島市のテキスタイルマテリアルセンター(毛織会館内)において、繊維マテリアルの整備、管理事業を実施してきた。

・しかし、グローバル化による安価な輸入製品や後継者不足など、産地を取り巻く経済情勢が激しさを増す中、さらなる繊維マテリアルの活用によるアパレル・繊維産業の振興を図るため、平成29年度末に岐阜県毛織工業協同組合に繊維マテリアルを移管した。

(2) 事業内容

・テキスタイルマテリアルセンターで行う繊維マテリアルの整理、保管及び活用に係る経費を助成する。

・現在同センターには全国からの利用者があるため、その維持管理に必要な経費を全国からクラウドファンディングにて集める。

（３）県負担・補助率の考え方

・本県の主要な産業の一つである繊維・アパレル産業の振興につながるものであり、県負担は妥当。

（４）類似事業の有無

・アジア最大規模の繊維総合見本市「ジャパנקリエーション（出展企業約1,000社）」に出展された、その年の代表的素材や新開発素材が集積されている国内最大かつ唯一の施設であり、類似事業は全国にも例がない。

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	2,700	人件費2,700千円
役務費		
その他		
合計	2,700	

決定額の考え方

--

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

「岐阜県経済・雇用再生戦略」

５ 県産品の世界展開プロジェクト

（４）地場産業の持続可能な発展に向けた支援

（２）国・他県の状況

無

（３）後年度の財政負担

・クラウドファンディングで賄えなかった分については、毎年上限額以下の経費負担が発生する見込み。

（４）事業主体及びその妥当性

・県内のアパレル、繊維産業振興のために、組合が所有する繊維マテリアルの整理・管理・活用を促進するものであり事業主体として妥当である。

県単独補助金事業評価調書

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	繊維マテリアル活用事業費補助金
補助事業者（団体）	岐阜県毛織工業組合 （理由）膨大な繊維マテリアルの整理・保管や、来館者への対応を適切に行う必要があるため
補助事業の概要	（目的）アパレル・繊維産業の振興と発展を図る （内容）繊維マテリアルの整理、保管及び活用に係る経費を助
補助率・補助単価等	定率 （内容）補助対象経費の10/10 （理由）自主財源に乏しいため。
補助効果	アパレル・繊維産業の振興と発展
終期の設定	終期 令和10年度 （理由）経済情勢等を踏まえ検討する。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

アパレル・繊維産業の振興と発展を図り、ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくりを目指す。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 H28年度	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
年間来館者数 (単位：人)	1,993	2,318	2,300	2,530	2,530	

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
	2,700	2,700	2,700

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	<p>○令和4年度末の素材サンプル収蔵状況：120,036点 来館者数はほぼ回復し、終期目標値の9割を達成した。尾州産地のアパレル事業者と国内外デザイナーとのマッチングだけでなく、県内服飾・ファッション専門学校等の課外研修も増えており、繊維・アパレル産業を担う人材育成の場としても活用されている。また、マテリアルセンターの研修を受講していた学生が、新人デザイナーの登竜門である「装苑賞」のR4年度受賞者となった。 (来館者数：令和4年度：2,119人)</p>
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

令和5年度	<p>○令和5年度末の素材サンプル収蔵状況：120,181点 来館者数はほぼ回復し、終期目標値の9割を達成した。尾州産地のアパレル事業者と国内外デザイナーとのマッチングだけでなく、県内服飾・ファッション専門学校等の課外研修も増えており、繊維・アパレル産業を担う人材育成の場としても活用されている。また、マテリアルセンターの研修を受講していた学生が、新人デザイナーの登竜門である「装苑賞」のR4年度受賞者となった。 (来館者数：令和5年度：2,164人)</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和6年度	<p>○令和6年度末の素材サンプル収蔵状況：121,709点 来館者数はほぼ回復し、終期目標値の9割を達成した。尾州産地のアパレル事業者と国内外デザイナーとのマッチングだけでなく、県内服飾・ファッション専門学校等の課外研修も増えており、繊維・アパレル産業を担う人材育成の場としても活用されている。また、マテリアルセンターの研修を受講していた学生が、新人デザイナーの登竜門である「装苑賞」のR4年度受賞者となった。 (来館者数：令和6年度：2,318人)</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	マテリアルセンターは、主に素材企画の参考資料、素材学習の中核拠点として活用されており、大学・専門学校等教員の視察、学生の学習、国の海外研修生事業、ファッションデザイナーによる素材企画のための参考視察を受け
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	国内最大規模の同センターは、繊維関連企業や繊維デザイナーなどの活用も多く、また学生の研修の場にもなっており、次世代のファッション産業を担う人材育成の場として機能している。 また、県内繊維メーカーが大手アパレルメーカーと一緒に訪問し、素材を見ながら商談できる場でもあり、産業振興の機能を有する。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	人件費及び管理費ともに最低限の負担としており、常に経費の見直し図っている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 県内の繊維業界は国内市場の縮小、消費者ニーズの変化、外国製品との競争、人材不足など変化に対応するため、付加価値の高い商品開発や販路の拡大といった支援が必要である。</p>

(次年度の方角性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 繊維マテリアルセンターは県の主要な地場産業である繊維・アパレル業界を支える拠点施設として機能しており、県内の繊維・アパレル産業の振興のため、県として引き続き本事業により支援していく。</p>
